

## 1 学期終業式 校長講話

皆さんこんにちは。今日は旧暦の七夕ですが、やっと夏休みだと感じている人も多いと思います。ここまでよくがんばりました。今年は新型コロナウイルスにより、これまでの日常が日常ではなくなってしまったことを思い知らされました。6月の学校再開後、いったん下火になったかと思いきや、再び感染が拡大傾向となり、今や第2波の勢いは止まりません。そして、この1週間は近隣で感染者が多数確認され、中野市を含む北信圏域は県の感染警戒レベルでレベル3(警告)に引き上げられました。コロナ感染のリスクが高まっていることを全員で共有し、なんとしても新型コロナに感染しないように気をつけていかなければなりません。もし、万が一、校内で感染者が出れば、学校は休校となり、濃厚接触者の調査やPCR検査を受ける対応が迫られます。あるいは感染拡大が止まらず、感染レベルが更に引き上げられれば、分散登校など授業や部活動、8月末の翔舞祭など皆さんの高校生活に大きな制限が余儀なくされてしまいます。

では、新型コロナに負けないためにはどうしたら良いのでしょうか。

日本赤十字社によると新型コロナウイルスには「3つの顔」があり、それらがつながって負のスパイラルで感染症が広がっているとされています。3つの顔とは「病気」「不安」「差別」です。「病気」である新型コロナウイルスは目に見えないことから、「不安」を招き、その「不安」を遠ざけたい人間の本能が「差別」を生み、「差別」を恐れるあまりに受診が遅れ、病気の拡散につながっているというのです。

第1の「病気」を防ぐためには、すでにお願しているこまめな手洗い、咳エチケット、マスク着用、三密を避けるといった基本的な感染症対策を徹底することです。このコロナに立ち向かう行動を一人一人が自分のためだけでなく、周りの人のためにも(おじいちゃん・おばあちゃんのためにも)行うという気持ちが大切です。

第2の「不安」を防ぐためには、不確かな情報に惑わされない冷静な行動が求められます。コロナに係る不確かな情報を安易(あにい)にSNSに載せてしまうことで、第3の「差別」を助長してしまい、誰かを傷つけることになってしまいます。現に患者や医療従事者、県外ナンバーの車などへの誹謗・中傷が問題になっていることは皆さんも承知しているでしょう。サッカー元日本代表本田圭佑(けいすけ)さんは自身のツイッターで「コロナに感染した人は何で謝罪するの？被害者でしょ」「病気にかかった人を追いつめるって…」新型コロナウイルス感染者に対して誹謗中傷する人々を批判しました。コロナの不安によって人々の心までむしばまれてしまっているのです。差別や偏見を拡散させてはなりません。

本校の校訓の3つ目は「友愛」です。中野西高校の生徒には仲間を思いやる優しいしなやかな心を持ってもらいたい。それを育てたい学校だと思っています。自分だけでなく、誰かの命を守る責任ある行動をぜひお願いします。

一昨年、上田情報ビジネス(ウエジョビ)の比田井和孝(ひだいかずたか)さんの「与える者は与えられる」という話をしました。3年生は覚えていますか。

これは『鏡の法則』の著者 野口嘉則(よしのり)さんの言葉です。

「与える者は与えられる」

とかく、人は「もらう」ことばかり期待しがちです。しかし、自分から何かをしなければ、努力しなければそんな期待通りにはいきません。そうすると「私には何もしてくれない」「私をだれも助けてくれない」「…くれない」

こういう人を「くれない族」というそうです。コロナの負のスパイラルに陥りやすい人になってしまいます。

逆に人のために「与えること」を心がけている人は、周りの人から感謝されたり、信頼されたりして、巡り巡って自分に幸せが返ってくるというのです。先に述べたようにコロナに立ち向かう行動を行うことは自分のためだけではなく、周りの人の命を守るということになり、「与えること」になります。

皆さん、「してもらう」(もらう側)ではなく、「してあげる」(与える側)になってください。決して見返りを求めず、そういう心持ちを続ければ、きっといいことがあると思います。そこには差別や偏見はないはずです。

最後に、梅雨明けとともに猛暑がやってきました。コロナだけではなく、熱中症にも注意して、生活のリズムを崩さぬよう気をつけてください。それには睡眠時間をしっかりとって、朝早く決まった時間に起きることをお勧めします。

学習に部活に家族と過ごす時間など充実した夏期休業になることを期待しています。  
2 学期の始業式にまた元気な顔を見せてください。(終わります。)